

木材用防カビ剤 カビディフェンス950F

長期継続、安全性向上



作業性良好、安全・安心



フジモト化成 奈良県桜井市外山420-1
TEL 0744-43-1234

URL <http://www.fujimoto.gr.jp>

カビディフェンス950F

木材用防カビ剤 17Kg

<特長>

- * 複数の防カビ成分を配合しており、様々な種類のカビに対して優れた防カビ効果を発揮し、カビの発生を長期間にわたり防止します。
- * 近年問題視されるようになりましたシックハウス症候群やVOC対策として厚生労働省が室内濃度指針値を定めておりますホルムアルデヒド、トルエン、キシレン等13物質を含んでおりませんので安心してご使用いただけます。
- * 木材の変色の少ない水性製剤で、刺激臭、不快臭などもなく作業環境を良好に保ちます。
- * 消防法上の危険物には該当致しませんので、火気に対しても安全です。
- * 防錆効果により、鉄槽などの腐食を最小限に抑えます。

<使用方法>

* 薬液槽で浸漬処理する場合

- ①薬液槽に水を張り、下表を参考に所定量の「カビディフェンス950F」を注ぎ入れた後、均一になるよう充分かき混ぜてください。
- ②木材製材品などを希釈液に浸漬して下さい。標準浸漬時間は10分間(5分～20分間)です。
- ③処理後は薬液をよく切り、雨水などが掛からない風通しの良い場所に保管して下さい。

- * 塗布での処理は、浸漬より2～3倍高い濃度に調整して木材表面に均一に塗布して下さい。

樹種別標準希釈倍率

樹種	標準希釈倍率
檜	100 ～ 250
杉	100 ～ 200
米樺	80 ～ 180
エゾ松、トド松	80 ～ 180
米松、カラ松	80 ～ 150
ニュージー松	60 ～ 120
欧州赤松、地松	60 ～ 100

危険有害性



※飲み込むと有害

※重篤な皮膚の薬傷・目の損傷

※アレルギー性皮膚反応を引き起こす恐れ

※遺伝性疾患の恐れ

※生殖能又は胎児への悪影響の恐れ

※長期継続的影響により水生生物に強い毒性

「カビディフェンス950F」は、優れた防カビ性能に加え、環境にも配慮した安全性の高い木材用防カビ剤です。

新発想、新技術により誕生致しました。

<使用上の注意事項> 主に薬液槽でご使用の場合

- ① 材品を束にして浸漬される場合は束内部まで薬液が入り込み易くするために適当な間隔で棧木を入れて下さい。
- ② 薬液槽内のオガ屑は、堆積しないよう定期的に取り除いて下さい。
- ③ 梅雨期や湿潤度の高い木材、カビの生育しやすい木材では薬剤を濃い目にして浸漬時間も十分にとって下さい。
その場合でも条件によっては十分な効果が得られないことも有ります。
- ④ 他の薬剤との混合は防カビ効果などに悪影響を及ぼすことがあります。 薬剤の切り替えなどで一時的にでも混合使用するような場合には、事前に弊社までご連絡下さい。
- ⑤ 本剤を高温で長期間放置した場合などに、希に容器内で沈殿することがあります。その他、異常を感じられた際は弊社までご連絡下さい。
- ⑥ 本剤を定められた用途以外に使用しないで下さい。

<取り扱い上の注意事項>

- ★ 液や希釈液の取り扱い時はゴム手袋、保護メガネ、マスクなど適切な保護具や作業衣を必ず着用。
- ★ 原液や希釈液が皮膚や衣服に付着した場合は石鹼や洗剤を用いて洗った後、水でよく洗い流して下さい。
- ★ 目に入った場合は直ちに多量の流水で15分以上よく洗浄し、すみやかに医師の手当てを受けて下さい。
- ★ 万一、誤飲した場合は直ちに多量の水を飲ませ、無理に吐かせずに医師の診察を受けて下さい。
- ★ 本剤は魚毒性があります。原液や希釈液、洗浄廃液等を海、湖沼、河川、下水、農耕地などへは絶対に流出させない様ご注意ください。
- ★ 本剤は密封し、冷暗所に保管して下さい。氷点下になる場所での保管は凍結の恐れがありますので避けて下さい。

取扱い又は使用に際し、安全データシート【SDS】を必ずお読みください。